

せいきょう連ニュース

岡山県生活協同組合連合会 TEL : 086-230-1315 HP : <http://okayama.kenren-coop.jp/>



2012年は国際協同組合年

国連は、協同組合の果たしている役割の大切さから2012年を国際協同組合年と定め、それを記念して岡山県農業協同組合中央会・岡山県漁業協同組合連合会・岡山県森林組合連合会・岡山県生活協同組合連合会の4つの協同組合を中心に大学の先生、マスコミ等の方々に参加いただき実行委員会を結成して、取り組みを進めてきました。2012国際協同組合年記念作文・論文・実践報告コンクールの実施、記念講演会の開催、新聞での一面広告、2012国際協同組合年フェスティバル in おかやまの開催など行なってきました。フェスティバルでは2万人の来場者となり、一連の取り組みを通じて協同組合の果たしている役割や活動を学び、広く知らせることができました。



2012 国際協同組合年フェスティバル in おかやま

～ 絆・希望・未来 ～

● 2万人の参加で大盛況

9月29日実行委員会主催による「2012国際協同組合年フェスティバル in おかやま」～絆・希望・未来～を開催しました。県内の協同組合が協力し役割や活動を知ってもらうことや交流を目的に開催し、約2万人の参加者で終日にぎわうなど大盛況となりました。

当日の全体運営については、全面的におかやまコープの協力により、各コーナーで職員・組合員の派遣を頂くなど、スムーズな運営を行なうことができました。

● 力強い和太鼓で始まった開会式 絆と連携を深め

農業大学校の学生による太鼓演舞を合図にスタート。実行委員会副代表 堀川進農協中央会会長の開会宣言、実行委員会代表千葉喬三就実学園理事長より「組合内の絆や他の協同組合との連携をさらに深め、地域発展に貢献していくこと」など開会あいさつが行なわれました。続いて来賓として中国四国農政局長國弘実さん、岡山県知事代理 農林水産部長高橋邦彰さん、岡山県議会議長代理 県議会農林水産委員会委員長蜂谷弘美さん、岡山県町村会会長 吉備中央町町長 重森計己さん4人からあいさつをいただき、全員でくす球をわり、フェスティバルを開会しました。



●記念作文・論文・実践報告コンクール表彰式

2012 国際協同組合年記念作文・論文・実践報告コンクールは、岡山県知事賞の高下妙子さんをはじめ、加百智津子さん、前 律夫さん、大岸貴美子さん、川端由志子さん、木口文子さん、大守清智さんがそれぞれ表彰されました。最後に審査委員長岡山商科大学大学院特任教授 鳥越良光さんから講評が行なわれました。

●多彩なイベントが行なわれたステージ

中央舞台では、杉の子保育園児による鼓笛隊による演奏、JA 真庭による「YOSAKOI ソーラン踊り」、恩納村漁協によるサンゴ礁再生の取り組み報告、ファジアーノマスコットキャラクターファジ丸くんと遊ぼうなどそれぞれの団体の特徴を活かした取り組みや企画が行なわれました。

ミニステージでは、マジックショー、ファジアーノマスコットキャラクターショー、JA 戦士シャインショーを実施し、子どもの参加など楽しくいきいきとした取り組みとなりました。



●被災地支援コーナー

東日本大震災復興支援コーナーでは、おかやまコープが中心となって、被災したメーカーからの出展とともに、大鎚町で被災された方によって作られた手作りの人形や手芸品の取り扱いが行なわれ、売上を寄付しました。



●全体で 219 ブースとなり、 様々な団体から出展されました

全体で 219 ブースの出展となり、おかやまコープ関連で COOP 商品や産直商品などを中心としたブースや職員有志の出展など 140 ブースとなりました。

岡山医療生協、倉敷医療生協、津山医療生協の 3 生協による「健康チェックコーナー」は、展示含めて 22 ブースと大規模なものとなり、多くの方が、血圧 体脂肪 血管年齢 肺年齢 肌年齢 骨密度 一酸化炭素濃度 歯科・歩行チェックなど訪れていました。

三井生協、グリーンコープ生協、岡山大学生協、岡山県学校生協で物販や試食、飲食などの出展が行なわれました。



●たくさんのおもたちの笑顔があふれたキッズコーナー

キッズコーナーでは、県労済生協のダンボールによる防災キッズ迷路に子どもたちが楽しく参加しました。岡山大学岡プロこどもプロジェクトチームによるクイズ「岡大からの挑戦状」、川崎医療福祉大学エンゼル・サポート「バルーンアート」を行い、子どもたちに人気のコーナーとなるなど、若い学生がボランティアとして参加し、フェスティバルを支えてくれました。

ふわふわコーナーやクイズラリーもたくさんのおもたちでにぎわいました。



●希望ある未来社会へ

岡山県実行委員会副代表安場靖岡山県生協連会長理事から「この日のために準備をし、運営に協力をいただいた団体や事業者の方へのお礼とこのフェスティバルを通じて協同組合どおしの連帯と絆が深まったこと、この経験を希望ある未来社会につなげていくこと」などの閉会挨拶が行なわれ、すべての企画の終了となりました。

2012 国際協同組合年 記念講演会を開催。

2012年7月28日(土)岡山国際交流センターで2012国際協同組合年記念講演会を実施しました。当日は、生協を中心に92名の参加となりました。

開会挨拶は、国際協同組合年岡山県実行委員会副代表岡山県生協連会長安場靖さんが、生協の誕生や国連として協同組合年を設定したこと、25の団体で実行委員会を作り進めていること、協同組合の発展にむけて取り組みを進めていくことなどの決意を含めた挨拶を行いました。

「国連・国際協同組合年決議の背景と日本の協同組合の役割」をテーマに生協総合研究所理事栗本昭さんが記念講演を行いました。

栗本さんから、貧困の削減や雇用の創出など社会開発に協同組合が大きく貢献していることやリーマンショック時に協同組合はリスクが少なく評価されたことなど踏まえ、国連が協同組合への期待から国際協同組合年として設定されたこと、世界の中での協同組合の取り組みや被災地復興にむけ協同組合の果たした役割、協同組合憲章の内容や生協へ期待されること等について、講演いただき、新たに分かったことや認識が深まりました。

また、会員生協実践報告として、岡山医療生協「岡山医療生協の健康づくり」住友富子さん、労済生協「防災教育プログラム」口羽齊文さん、倉敷医療生協「地域とともに育つ支部をめざして」石井悦子さん、おかやまコープ「漁協とともにすすめる里海づくりの活動」大岸貴美子さんの4名が行ない、それぞれの生協の特徴をいかした取り組みや実践報告となり、大変参考になり、参加者からも共感の声が多く寄せられました。



岡山県実行委員会実行委員おかやまコープ理事長三橋幸夫さんから、さらに認識が深まったこと、協同組合年の年に活動に関わることができること、ふさわしい活動をしていくことを確認した閉会挨拶が行なわれ、終了しました。

アンケート結果では、よかったと思われた方は、82%になりました。栗本さんの講演を聴いての感想では、「生協の歴史や果たして来た役割が良くわかりました。また、国連が国際協同組合年とした背景や期待されていることについて理解が進みました。」「国際協同組合年について、いままでの経過について勉強できて良かったです。協同組合が貧困や失業を救済する大きな役割を担っていることもわかりました。」など寄せられました。

また、会員生協の実践報告では、「協同組合の価値や原則がどのように具体的な活動として実践されているのかを実感できて、講演の後に報告があったのはとても良かったです。」「様々な生協の活動を知るといふ事はとても大切だと感じました。」「多様な協同組合がその特性を発揮して多方面から社会的意義を深めている様子が知れたことが良かったです。」など共感の声が多く寄せられました。

ポストIYCにむけて

国際協同組合年は、2012年の1年間で終了しますが、4つの連合会を中心に一連の取り組みで築かれた団体・個人との関係を終わらせることなく、次年度以降も継続していくことが、大切となります。まとめの実行委員会では、次年度以降の取り組みなどを検討していく予定です。



第2回実行委員会



山陽新聞一面に掲載

会員生協トピックス

県学校生協

南公民館・夏休み体験講座で初めての『南極クラス』
8月9日

NPO 法人岡山市子どもセンター、芳泉・浦安子ども劇場、岡山市立南公民館が共同開催する夏休みフリー塾の講座として出張体験講座『南極クラス』を開催しました。



夏休みフリー塾は12年目を迎え、夏休みに子どもたちの体験活動と地域とのふれあいの場を提供されている息の長い活動です。県学校生協は出張『南極クラス』の『こどもたちに良い体験を通して将来に明るい夢と希望をはぐくむきっかけにして欲しい』という主旨にそう活動として賛同共催しました。小学生や保護者、中高生・一般ボランティア等80人を超える参加があり、4回にわたり南極観測隊に参加し金メダル受彰の井熊英治講師が、極寒の中での美しい自然環境や隊員たちの過酷な体験などを紹介しました。子どもたちは防寒服や南極の氷に触れるたびに歓声を上げ、質疑応答では「南極の氷ができるまでなぜ1万年もかかるのですか？」など目を輝かせながら次々に質問。体験活動を通じた地域の人とのふれあいの場として大変盛り上がりました。一緒に参加したボランティアも子どもたちが氷に触って楽しそうで嬉しかったと話していました。



グリーンコープ生協おかやま

2012年9月に岡山市北区の活動組合員を中心に県内畜産生産者の牧場へ見学に行きました。グリーンコープ指定の飼料で育てられた産直国産牛、産直放牧黒豚を間近で見ながら、生産者の方から話を伺うことであらためて生産者のご苦労やグリーンコープのこだわりを感じることができました。



津山医療生協

現在、津山医療生協では開設以来の大きかりな事業、全事業所を一堂に集めての新築移転工事を行っています。9月25日から柱が立ち始め10月4日なってもまだ上棟が出来ていないほどの大きさです。近所の人も「こんな大きな木造建築は初めて。いいのが出来てる。」と完成を期待していました。



岡山大学生協

オープンキャンパスの取組み



岡山大学では、8月3～4日の2日間に「オープンキャンパス2012」が開催され、岡山県内外から高校生や保護者ら延べ約18,800人が訪れました。岡山大学生協でも岡山駅からの道案内・キャンパス内の道案内を始め、受験の不安や悩みを解消したり、入学への期待を膨らませてもらうために、相談デスクを設置し多くの参加者のご案内・対応にあたりました。



岡山医療生協

環境問題や子育て支援活動にも力を入れて

岡山医療生協では「安心して住み続けられるまちづくり」を目指して、健康づくりだけでなく、環境問題や、子育て支援にも取り組んでいます。岡山市御津町の産廃場建設反対の運動をすすめるため、現地視察や署名活動、学習会なども積極的に行いました。岡山市の水源地の問題ということで、環境サークル「青い空」を中心に班会やくらしの学校などで広めています。



夏休み中の小学生を中心に「夏休み宿題応援隊」を開催しました。

元教員の組合員さんの応援も得て、勉強、平和、工作、ボランティア、病院探検などを3日かけて行いました。



「くらしの学校」で産廃場視察を行う岡山医療生協一宮支部のみなさん

倉敷医療生協

①初の認知症サポーター・ステップアップ講座

8月に認知症サポーターを対象に「ステップアップ講座」を初めておこないました。川崎医科大学神経内科の片山禎夫医師の講演と、認知症看護認定看護師、ケアマネジャー、キャラバンメイトをパネラーにシンポジウムをおこないました。100人余が参加し、病気への理解や適切な対処法についての理解を深めました。

②環境のつどい

9月に“くらしの節約、楽しく学んで行動しよう”をスローガンに恒例の『環境のつどい』を倉敷市環境学習センターでおこないました。環境学習センター（アスエコ）の中平哲也氏に「くらしのエコライフ～地球の病気と処方箋～」と題して講演をしていただきました。組合員さんからのエコ実践報告、水質調査結果の展示など、楽しく学びあいました。



三井生協

三井生協くらしの助け合いの会

9月8日（土）11時より、三井生協くらしの助け合いの会と広島県因島の「日立造船因島生協コープふれあいの会」との交流会が開催されました。

日立造船因島生協との交流会では、いくつかの班に分かれてディスカッションをし、それぞれの活動の様子を確認し合いました。



第34回三井生協家庭会チャリティーバザー

10月6日（土）、午後10時より玉野レクセセンターにて第34回となる三井生協家庭会チャリティーバザーが開催されました。多くの来場者が訪れ、バザー品の購入にご協力いただきました。収益金は全て玉野市へ寄贈し、社会福祉事業の活用に役立てていただく予定です。

県労済生協

2012年7月30日（月）、ホテルグランヴィア岡山において、「全労済岡山県本部第3回代表者会議」ならびに「岡山県労働者共済生活協同組合第55回通常総代会」を開催し、提案した全議案について、満場一致で承認いただきました。



2012 国際協同組合年フェスティバル(9月29日)「忘れない 3・11 東日本大震災被災地支援」

協同組合が連携し、息の長い被災地支援の輪をさらに広げることは重要です。おかやまコープでは、「3・11」を忘れず、被災地の現状、いま被災地のためにできることを考え合うために「東日本大震災被災地支援コーナー」を企画しました。

被災した女性たちの手作り品、メーカーや産地の商品を販売しました

国際医療支援ボランティア団体「AMDA (アムダ)」(本部 岡山市) が復興支援拠点として岩手県大槌町に設立している「AMDA 健康サポートセンター」は、地域の人びとが憩える場所であり、被災された女性たちが手芸教室を開き、生きがいのひとつになっています。ここで、一針ひと針愛情をこめて作られたバッグやおしゃれ小物、雑貨、Tシャツなどを取り寄せて販売するとともに、手芸教室の手芸材料などの購入に充ててもらうための募金も呼びかけました。

併せて、津波で壊滅的な被害を受けた岩手県と宮城県の水産加工業者の復興を支援する水産加工品、女川町の秋刀魚などの販売とともに、津波で壊滅した会社や工場跡の写真、当時の工場長のメッセージなども紹介し、現地から来られたメーカーの皆さんから、「岡山から元気をいただきました」と喜んでいただきました。



被災地メーカー3社の販売コーナー



おしゃれな手芸品がたくさん並びました



写真・パネル展示

Action

+36°C

「大学生被災地仮設住宅訪問」を応援しました(8月6日~9日)

岡山県の大学生が取り組む東日本大震災 被災地の仮設住宅への訪問活動を応援するために、おかやまコープでは募金活動を行い、大学生を派遣する資金の協力とあわせて3名が事務局として参加しました。



仮設住宅での「流しそうめん」には多くの人が参加して楽しみました



住宅跡地では、家族の大切な思い出の品が出てきます。

被災者が希望を持てるようように、一日でも早く被災地の新しい町の姿が見えることが必要だと感じました。そのためにも、震災を風化させないようより多くの人が現地を体感し伝えていくことが重要だと思います。

(参加レポートより)

岡山県への要望書を提出

岡山県に対して、県生協連として要望書を提出し、趣旨について説明を行ないました。岡山県からは、くらし安全安心課 渡辺課長、山下主幹、山根主任が対応頂きました。回答の受け取りは、来年の1月から2月を予定しています。

主な項目は、消費者行政の充実・強化、食の安全、災害対策、環境対策、保険・医療・福祉・介護・少子化対策、産消提携・地産地消運動、国際協同組合年の7テーマ 23の項目についての要望書を提出しました。



消費者行政の充実・強化にむけて、前進しました。(法案が可決・成立)

改正特定商取引法と消費者教育推進法は、8月10日の衆議院本会議で、改正消費者安全法は8月29日の参議院本会議で、それぞれ可決・成立しました。

特定商取引法の一部を改正する法律

貴金属等の買取業者による自宅への強引な訪問買取に対して、相談件数が急増したことにに対する対応として、売渡しの契約締結後も、売主は契約の一時的な解除(クーリングオフ)が出来ること、不招請勧誘の禁止(勧誘を要請しない人への勧誘の禁止)、規制対象物品の非限定化等が追加されました。

消費者教育推進法

消費者教育を「消費者の自立を支援するために行なわれる消費生活に関する教育及びこれに準ずる啓発活動」と定義し、特に都道府県と市町村は、政府が定める「消費者教育の推進に関する基本方針」を踏まえ、「消費者教育推進計画」をそれぞれ定めるように努めること、さらに「消費者教育推進地域協議会」を組織するよう努めることとされています。

改正消費者安全法

消費者安全調査委員会を創設し、消費者の財産被害に係るすき間事案(被害の発生・拡大防止を図るために実施し得る他の法律に基づく措置がない事案)への行政措置が導入されることになりました。

消費者安全委員会は、内閣総理大臣が任命する7名の委員で構成され、運輸安全委員会の調査対象とされている事故等を除く「生命身体事故等」を調査対象としています。

集団的消費者被害回復に係る訴訟制度の実現にむけて

消費者庁は「集団的消費者被害回復に係る訴訟制度案」を公表して意見募集を行ないNPO法人消費者ネットおかやまでは、早期に実現するように消費者庁に対してパブリックコメントを提出しました。

第26回 岡山県消費者大会が開催されました。



10月30日 「私たちのくらしをめぐる問題とセーフティネット」を全体テーマとして第26回岡山県消費者大会を開催しました。県消団連代表幹事 弁護士近藤幸夫さんの開会の挨拶につづいて、記念講演として立教大学コミュニティ福祉学部教授 芝田英昭さんから「社会保障と税の一体改革は何をめざしているのか」のテーマで「社会保障と消費税をリンクさせることの危険性、子育て関連法案による企業の参入の問題点、社会保障の再生として能力の協働性から税負担を考えることが必要」などお話ししました。

参加者からは、「ことばのマジックを解いてもらい分かりやすかったです。」「社会保障と税の一体改革について、マスコミで報道されている内容以外について、分かりやすく知らない内容が理解できた」「表面の言葉だけではわからない奥底の意味を知ることができて良かった」などの声が寄せられました。団体報告

では、①JA県女性組織協議会『国民の暮らしと生活を守る取り組みについて～TPP交渉参加阻止!～』②岡山医療生活協同組合『もっと安心してかかりたい 国保税引き下げの取り組み!』③生活協同組合おかやまコープ『おかやまコープの組合員LPAがすすめる「くらしの見直し活動」』とそれぞれの特徴を活かした取り組み報告となりました。

消費者大会宣言の提案を県消団連 岡田京子さん(新日本婦人の会岡山県本部)、閉会あいさつを県消団連代表幹事 木下幸男さん(岡山県労働者福祉協議会)が行い、終了しました。

消費者ネットおかやま 県から受託した「消費者被害未然防止事業」がスタートしています。

岡山県から受託した消費者被害未然防止事業が9月よりスタートしました。9月は、「葬儀とお墓の基礎知識」を2会場で開催し、10月後半から11月前半には、「成年後見制度」11月中旬からは、「住宅リフォームのトラブル」を実施し、参加者からは、「役に立った」などの感想が寄せられています。



第14回 消費者被害 なんでも相談会の開催

12月1日(土) 13時～16時
きらめきプラザ 2階
ゆうあいセンター大会議室

様々な消費者被害が発生している中、弁護士、司法書士、建築士等の専門家の先生が相談に応じます。

今回は、高齢者・障がい者権利擁護ネットワーク懇談会との共催で行ないます。

たくさんの笑顔と思い出を

福島子ども保養プロジェクト in おかやま



昨年発生した東日本大震災と福島第1原発事故から1年7か月が経過しました。今なお福島県では、多くの方たちが避難生活を強いられ、また普段のくらしを取り戻すことができていません。特に原発事故による放射性物質の除染は進んでおらず、住んでいる人たちの生活に大きな影響を与えています。子どもたちの被ばく積算量を心配する保護者の気持ちに応えるために、週末や長期の休み期間中に低線量の地域で過ごす活動として、福島県生協連と一緒に「福島子ども保養プロジェクト in おかやま」を開催いたしました。おかやまコープ、岡山医療生協、倉敷医療生協、津山医療生協の共催で、10月6日から8日までの2泊3日で福島から10組26名の親子を迎え入れ、楽しいひとときを過ごしてもらいました。

全員が備前焼に挑戦。

2日目は、岡山城天守閣に登ったあと、全員が備前焼に挑戦し、初めての体験で、思い思いの作品を楽しく作ることができました。外にでると祭りがおこなわれていて、甲冑姿の人たちの鉄砲の音でびっくり的一幕も。



鷲羽山ハイランドでおもいきりあそんで…

倉敷医療生協の組合員さんも参加して、鷲羽山ハイランドで思い切り遊びました。夏日となった気温の中でも、子どもたちはトランポリン、観覧車など次々と乗り物にのったり、ローラースケートを行ったりと元気いっぱいの姿を見せてくれました。

ウェルカムパーティー 組合員さんとの交流 方言で盛り上がる

岡山県のマスコットキャラクターももっちとうらっちが駆けつけてくれ、全体を盛り上げてくれました。また、子どもたち一人ひとりに、もたろうのキーホルダーをプレゼントしてくれました。おかやまコープ、岡山医療生協の組合員さん、職員が参加して福島の親子との交流をし、方言の伝達ゲームでは大変盛り上がり、楽しいウェルカムパーティーを過ごすことができました。



倉敷美観地区を散策

倉敷医療生協のしらかべ支部の組合員さんが迎え、案内をして回ってくれました。また、日頃体験できない人力車にのったり、渡せ船にのったり、地図をみながら、散策を楽しみました。

除染が進まず心配、でも少しずつ変わってきている。

「昨年の夏は、子どもたちの肌はまっしろだった。夏でも長袖で過ごし、クーラーのない教室で窓を閉め切って授業をしていてかわいそうだった。外で遊べなかった。」

「現在学校は除染が進むが、家のまわりなど地域ではほとんど出来ていない。昨年と放射能濃度はあまり変わっていないのに、子どもたちは我慢できなく、外で遊ばしている。見えないだけに心配で」と福島での生活を語ってくれました。「でも今年になって、少しずつ変わってきている。福島が少し元気になってきたかな」とも。

たくさんの「笑顔」を残してくれた3日間

今回の3日間の感想で「中身がたくさん詰まって様々なことを体験できて良かったよ」子どもたちからは「たのしかった」と言葉を残してくれました。遠く岡山から福島の人たちの「笑顔」を望んでいるたくさんの人たちがいることも感じてもらえたと思います。復興とともに生活再建が何より大切であること、そして大きく遅れている除染を早く進める必要があります。まだまだ支援が必要です。たくさんの笑顔を残してくれた3日間でした。協力頂いた組合員の皆さん、職員の皆さんありがとうございました。



お手紙を
頂きました

…福島をはなれ、
放射線量を気にす
ることなく、のび
のびすごせたこと
に感謝します。